

京都工業会 ニュース

基本理念

—21世紀を担うモノづくり集団—

京都からモノづくりイノベーション

2013 No.376

平成25年度 他府県産業界との交流会

9/12・13

“ものづくりの息づかいに触れる”

～新潟県産業視察「燕 三条」を訪ねて～

平成25年9月12、13日の両日、服部会長を団長とする17名が新潟県の燕市と三条市を訪問した。ここでは、金属加工を中心とした「ものづくり」の歴史と伝統に培われた職人（匠）の高度な技と知恵により挑戦を続けてきた企業が数多くある。特に現代にマッチした製品を創り出すことで過去の技術の高度化が図られ、世界有数の技術集積地として進化を遂げており、今回はその「ものづくりの原点と精神」を学んだ。

なお、今回の視察においては新潟県大阪事務所の格段のご配慮をいただいた。

9月12日 三条市

三条市は新潟県のほぼ中央部に位置し、新幹線、自動車道IC、空港等の整備により首都圏、関西圏とは一日経済圏にある。

1625年（寛永2年）に奉職した代官所奉行の大谷清兵衛は、三条の中心を流れる五十嵐川の氾濫に幾度となく苦しめられてきた農民を救済するため、江戸から釘鍛冶職人を招き、農家の副業として和釘の製造方法を指導した。

1661年（寛文元年）に会津地方から新しい鍛冶技術が伝わると、製品も釘から鎌、鋸、包丁へと広がり、専門の鍛冶職人が育ち、金物を取り扱う専門の商人が五十嵐川や信濃川などの河川を利用した商圏を広げ、「鍛冶の町三条」が全国に知れ渡りようになった。

今や金属関係を中心に先人のためまぬ努力と研鑽で培われた工業技術は多岐にわたり、一貫した製品づくりが可能となった。製品は品質、デザイン、機能とも優れ国内外の幅広い層から高い評価を得ている。

■(株)タダフサ（包丁工房タダフサ）

1948年（昭和23年）創業。資本金2700万円。従業員15名。家庭用・業務用包丁の製造。

伝統工芸士でもある二代目の会長曾根忠一郎氏が自らスプリングハンマーを意のままに操り、ガス炉で800～900度に熱した鉄と鋼を火花を散らして圧延し、包丁の強靱化、形状化を成し遂げていく様は職人の伝統の技そのもので、感動すら覚える。筋金入りの職人魂を持った人物である。

社長は三代目の曾根忠幸氏。職人の目と勘が求められるすべての工程を手作業で行う鍛冶の技、刃付けの確かさは、古くから続く打ち刃物「三条鍛冶」を今に伝えるが、若い社長は時代に合った新しい経営を目指している。

タダフサは初代曾根寅三郎が裸一貫で創業。当初は、大工用曲り金・鎌・小刀・包丁などを手掛けていたが、次第に漁業用刃物、その後、家庭用・本職用・蕎麦切り包丁などにも取り組み、現在に至っている。時代のニーズに合わせ、顧客の望むものを作り続けてきたことでグッドデザイン賞、中小企業長官賞などを受賞している。

会長の談によると、技術は子供のころから先代の仕事を見て覚え、先代は「値段ではない、品物だ」が口癖で、クレームにはすぐに対処することを教えられた。刃は10～20年は持つが、最近の料理人は研ぎが下手で、ハガネの部分ばかり研ぐ。三条に後継者は結構いるとのこと。



▲(株)タダフサにて

■(株)兼古製作所

1949年（昭和24年）創業、1954年（昭和29年）設立。資本金3000万円、従業員140名。ドライバー主体に各種ねじ回し・作業工具の製造。売上20億円。

社長は兼古耕一氏。ドライバーだけで月産150万本。すぐれた機能性、時代にマッチした遊び心と洗練されたデザインに定評あるオリジナルブランドを誇っている。経産省の元気なモノづくり300社にも選ばれている。

社内一貫体制で設計から金属加工、熱処理、プラスチック成型、組立、品質管理まで行っている。美術を専攻していた社長の意匠・デザインに対する思い入れは「使

「いやすいものは美しい」という考えのもと、カラフルな製品・包装にも表れ、Gマークは29年連続で受賞。

輸出割合は10%未満で海外進出の予定はない。多品種少量生産で3000アイテムを擁し、店舗での欠品は許されない。人件費比率の少ない工具群を、一人でこなす工程が多いほどコストの差が出るので、数工程を一人の従業員がこなし、競争力を確保している。また、知的障害者も十数人雇用している。

■協三条工業会との懇談・懇親会

三条工業会は1964年(昭和39年)設立、組合員522社を擁する協同組合。理事長は(株)兼古製作所社長の兼古耕一氏。同工業会は、利工具、包丁、鋏、プレス、機械加工等18部門に分かれ、20名未満の組合員企業が7割を超えており、組合員の総売上高の合計は2,500億円。

懇談会は、兼古理事長、当会服部重彦会長のあいさつの後、両工業会の概要紹介が行われ、特に三条工業会の伊勢神宮式年遷宮に対する和釘や金物類の納入や、外部からの引き合いに対する組合員への仲介が注目された。

懇親会では、三条市の國定勇人市長の歓迎あいさつ、当会の天野嘉一副会長の乾杯の発声の後、三条会の役員・主要企業と当会の参加者による交流が繰り広げられ、初対面とは思えないほど大いに盛り上がりを見せた。

9月13日 燕市

三条市と川を挟んで隣の燕市も世界有数の金属加工産地。銅器やキセルなどの加工業が発展、現在では金属の洋食器やハウスウェアなどが生産されている。

■株玉川堂

創業1816年(文化13年)の老舗。当主は七代目の玉川基行氏。日本家屋の畳の上での手仕事工房。

一枚の銅板を鋸でたたき起こして銅器を製作する「鋸起銅器」の伝統技術を200年にわたり継承。最高品質の銅器を製造し、世界中に顧客を持つブランドとして著名。急須の注ぎ口まで一枚の銅板から作り上げる技術は驚嘆のほかない。価格は高いが売れるとのこと。文様を浮かび上がらせる技もすごい。茶器のほか酒器、鍋、花器、皿などを製造。すべて職人の勘一つで、打ち起こし、焼きなまし、打ち絞り、彫金、成形、着色の工程をこなす。銅を叩いて伸ばすのではなく、叩きながら縮めていく。叩くと硬くなるため、製作途中に火炉の中に銅器を入れ柔らかくする。

江戸時代後期、仙台の渡り職人が燕に鋸起銅器の製法を伝え、祖の玉川寛兵衛によって受け継がれた。燕に銅器製造が発展した背景には、近郊の弥彦山から優良な銅が産出され、素材の入手が容易であったためである。国内外の博覧会出品受賞。皇室の御慶事には製品の献上が習わしとなっている。現在、文化庁と新潟県より無形文化財に、経済産業大臣より伝統工芸品に指定されている。

■小林工業(株)

創業1868年(明治元年)。1947年(昭和22年)設立。資本金6000万円、従業員53名、社長は小林貞夫氏。

日本におけるスプーン、ナイフ等カトラリー(洋食器金物類)のトップブランド「ラッキーウッド」を誇る。

数々のグッドデザイン賞を受賞し、「洋食器の燕」の草分け的存在。

小林社長は工場案内、商品展示場での説明を通じカトラリーに対する技術と製品への熱い思いを滔々と語られた。1966年業界初のグッドデザイン賞受賞以来、同賞受賞70点以上、ロングライフデザイン賞20点以上。

創業当初は矢立てや灰ならしのような家庭用金物の鍛冶工房がその始まり。日本で最初のカトラリーの生産を開始したのが1915年(大正4年)。積極的に機械化を図り、他に先駆けて電力導入も行った。

1946年(昭和21年)まだ一般的ではなかったステンレス鋼にいち早く着目し、ステンレスカトラリーの生産を軌道に乗せ、1947年(昭和22年)にはラッキーウッドの商標を制定。戦後はステンレス製品を中心に主に輸出において業績を上げ、当時貴重な外貨を獲得して輸出貢献企業として国の表彰を受け、また中小企業モデル工場の指定も受けた。ラッキーウッドのブランドは国産カトラリーの頂点として親しまれ、現在も時代のライフスタイルの求めに応じたものづくりを心掛けている。

■石本酒造(株)

最後に、越後の銘酒「越乃寒梅」醸造元の石本酒造を訪問した。1907年(明治40年)創業。会長は三代目石本龍一氏、社長は四代目龍則氏。

仕込みは10月から始まるので、平成16年に機械化された近代的工場を詳しく見学。団員は何種類もの試飲を楽しんだ。コメ本来の旨さを追求し、原料は兵庫県産山田錦と新潟県産五百万石。「端麗辛口」の典型的な新潟県の日本酒で、さらりとして飲み口は軽い。

1960年代に入り、雑誌『酒』の編集長であった随筆家の佐々木久子が越乃寒梅に着目し、同誌で「幻の酒」として取り上げたのをきっかけにブームに火が点き、これを機に越乃寒梅の人気は高まり現在に至るまで高い評価を得続けている。また、宮尾登美子の『蔵』は石本龍一会長からの聞き書きが元になっている。

品質向上を最優先し、安易に大量生産に走ることなく生産量を限定して醸造を続けているが、近年人気が高まり、需給バランスが取れなくなったことから、プレミアムが追加されるケースが増えつつあるとのことである。



▲石本酒造(株)にて

終わりに

ものづくりの原点、メイドインジャパンの体感、道具に見られる伝統と革新、鍛え磨き上げられた精緻の技、研ぎ澄まされた品位あふれる美を備えた手道具、世界に通用する地域ブランドの視察は大いに刺激的であった。

第39回 関西環境管理者交流会を開催

9/18



平成25年9月18日(水)、京都工業会館において、第39回関西環境管理者交流会が開催された。

本会は、京都工業会、滋賀県環境保全協会、神戸地区環境保全連絡協議会の3団体に所属する会員企業の環境管理実務者の交流会で、3団体が持ち回りで事務局を担当し、環境業務に関する課題の研鑽(見学、講演、テーマ懇談など)や情報交換・意見交換、懇親会等の内容で毎年開催している。今年度は、京都工業会が開催事務局担当ということで京都工業会館での開催となった。

参加者は神戸6名、滋賀12名、京都26名、講師3名の総勢47名となり、冒頭京都工業会の長畑環境委員長(株GSユアサ)から歓迎・開会の挨拶があった。

その後、環境事業事例発表として京都地区を代表して(株)京都環境保全公社の石田会長、(株)島津製作所の太田地球環境管理室長、NPO法人KES環境機構の津村専務理事からそれぞれ自社(団体)の環境事業への取り組み状況や今後の課題等の紹介があった。

また、本会が関西環境管理者の集いであることから、今回は関西経済界の牽引役でもある(公社)関西経済連合会の阿部理事をお招きして、関西経済連合会の活動全般、国への政策提言を含めた環境事業等のご紹介を頂いた。



▲関西経済連合会 理事 阿部氏

交流会後は、同会館において懇親会が開催され、3府県の企業の環境管理者が和やかな雰囲気の中で、それぞれの意見・情報の交換を行った。最後に次回事務局担当の神戸を代表して神戸地区環境保全連絡協議会の森運営委員長(川崎重工業株)から来年度交流会への案内を含めた閉会挨拶があり、盛況のうちに懇親会を終えた。

白鷺クラブレポート

8/22

立石 文雄副会長を迎えて

8月22日夕、去る5月の本会定期総会において新しく副会長に就任された立石文雄氏(オムロン株会長)をホテルグランヴィア京都に迎え、第436回例会を開催した。

“京都工業会首脳との交流”とするこの会合は毎回メンバーの関心が高く、当日は会員多数が出席した。

立石副会長から、「理念なき経営は海図なき航海」をテーマに同社の現況についてふれられた後、

◎「社憲」「企業理念」の誕生と創業者 立石一真

◎企業理念の制定と浸透

◎経営哲学としての「SINIC理論」と長期経営ビジョンへの活用

◎コーポレート・ガバナンスの進化

◎今後の企業価値のあり方

を創業以来今日に至るまでの経緯、更には自らを支えた経営信念とあわせ明快に述べられ、出席者一同深い感銘を受けた。

その後は立石副会長をかこみ和やかな会食懇親会と活発な意見交換を行った後、記念撮影を行い有意義であった例会を終えた。



▲立石副会長をかこんで記念撮影

入会のご案内



白鷺クラブ

—企業後継者の研鑽・交流の場—

入会対象：本会会員企業経営者の二世、及び青年経済人。
役職等は問いません。

定例会：原則として毎月1回(第2木曜)開催します。

時間⇒18:00~20:30(於：京都工業会館)

※工場見学等、外部訪問は昼間開催

入会申込先：本会事務局

(お問合せ) TEL 075-313-0751

第556回京都工業クラブ

7/12

最近の中東・北アフリカ情勢と我が国の政策 ～トルコを中心にして～

外務省 中東アフリカ局長 宮川 眞喜雄氏

近年様々な動きから注目を集める中東・北アフリカ地域、そして中でもイスラム圏屈指の高い経済成長を遂げ注目を集めるトルコについて、外務省・宮川中東アフリカ局長をお迎えし、お話を伺った。ご講演では、同地域の政治的・経済的特徴から、いわゆる「アラブの春」、そして各国の状況、特にトルコについては概況・最近の情勢・経済等詳細に解説され、今秋派遣するトルコ産業視察団を前に現地事情について有意義なお話を伺うことができた。



第557回京都工業クラブ

8/22

暑い夏・波乱の秋～9月のイベントをどう乗り切るか～

日本経済新聞 編集委員 滝田 洋一氏

わが国経済は、漸く自律的回復に向かいつつあるとはいえ様々な難問を抱え今後の動きが注目されることから、日本経済新聞・滝田編集委員をお迎えし、今秋から年末の景気動向についてお話を伺った。9月は米国でFRB議長の後任人事、欧州でドイツの総選挙、日本では消費税増税論議・五輪開催地決定等懸案が山積しており、まずそれらをうまく乗り切ることが大切と述べられ、更に新興国の乱調、中国経済、消費税引上げ後の予想、そして最後に日本が考えるべき政策のゴールデンルールや日本のアキレス腱について解説された。



第558回京都工業クラブ

9/25

生産・コストマネジメントから見た独創のモノづくり革新

愛知工業大学 客員教授 加藤 典孝氏

ソニーの改善運動・生産革新の先頭に立ち20年間取り組まれた加藤氏をお迎えし、お話を伺った。まず、①3現：現実・現場・現物。今、何処で、何が起きているか？（認識）②2S：1S（把握）と2S（工夫）③何故何故5回（実行）の大切さや、ソニー生産革新のキーワード「活人」等を解説され、更には我々製造業が自信を取り戻すには…として、日本論にも踏み込んで「日本の文化と先達が創ってくれた“拘り”を思い出しましょう」と述べられた。



11月25日開催

一京都発。新産業・新技術の創出をめざしてー 京都産学公連携フォーラム2013 ご案内

“オール京都の産学公連携活動”を推進することをめざし、本会の産学公交流事業の中心ともいえるべき「産学公連携フォーラム2013」を下記の通り開催します。

多数のご参加をお願いいたします。

と き：11月25日（月）13：00～19：00

ところ：京都工業会館

主 催：京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都大学、京都府立医科大学、京都府立大学、同志社大学、立命館大学、龍谷大学、京都府、京都市、京都商工会議所、京都産学公連携機構、（公社）京都工業会

後 援：近畿経済産業局、（独）産業技術総合研究所関西センター、（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構関西支部、中小機構 近畿、（公社）関西経済連合会、（公財）関西文化学術研究都市推進機構、（公財）京都高度技術研究所、（公財）京都産業21、（一社）京都発明協会、（公財）大学コンソーシアム京都、京都市リサーチパーク（株）、関西ティー・エル・オー（株）、京都新聞社、KBS京都

【プログラム】

第1部 フォーラム（13：00～17：20）

13：00～ 開会挨拶

主催団体代表 （公社）京都工業会 会長 服部重彦

13：15～14：45 講演

「再生医療ビジネスに不可欠なものの作り技術」

京都大学再生医科学研究所

生体組織工学研究部門 生体材料学分野

教授 田畑 泰彦氏

14：45～ 休憩

15：00～ シーズとの出会い（分科会）

3会場で12テーマのシーズ発表を行います。

1会場では企業によるシーズ発表を行い、他の2会場では参画8大学のシーズ発表を行います。またシーズ発表者と別室で個別に相談することが出来ます。

（当日申込み要）

〈発表テーマ分野〉

環境・省エネの関連技術、医療関連技術、材料・新素材の開発・加工技術、分析・計測・制御・エレクトロニクス技術、開発支援

第2部 交流会（17：30～19：00）

基調講演者・シーズ発表者と参加者が、発表に関する質疑応答・相談等を行い、交流を深めていただきます。

「第33回電子システム研究科」
「第30回メカトロニクス研究科」 開講

6月26日、第33回電子システム研究科（9名）第30回メカトロニクス研究科（22名）の合同開講式が挙行された。理論にもとづく応用力の強化、先端電子技術を習得する「電子システム研究科」と、機械と電子の接点を理解・習得する「メカトロニクス研究科」は京都府の支援と在洛の大学及び産業界の協力により来年2月下旬まで行われる長期研修である。

当日は天野嘉一京都高等技術・経営学院長（本会副会長）の式辞、そして来賓の京都府中小企業技術センター副所長・三宅修二氏よりお祝いと激励の言葉がおくられた。

＜両研究科、一泊研修を行う＞

8月30日、31日の両日、開講間もない両研究科合同の一泊研修が、綾部市での企業視察、舞鶴市での講演会及びグループ討議を行った。

30日には京丹波町に所在するクロイ電機を訪問、和洋風の各種照明器具の生産ラインを見学、午後にはオムロン(株)綾部事業所を訪ね、制御機器、FAシステム機器等の製造ラインを見学した。

両社共、研修生にとって関わりが深い機器の主力生産工場であったこと、更には両社の技術紹介もなされたことから、両社及び生産された機器についての認識を大いに深めることができた。

舞鶴市内で宿泊した翌日31日には、同志社大学大学院（同志社ビジネススクール）藤原浩一准教授を講師に迎え、「テクノロジー&マネジメント」をテーマに講演を受け、様々な経営シミュレーションを体験、その後小グループに分れての討議を行った。

今回の一泊研修では普段の座学では得られない企業での実習、そして分科会での演習体験を行なうことができたなど、充実した二日間の研修を終えた。



▲オムロン(株)綾部事業所にて



ゴルフ同好会
(KIG)だより

▶平成25年度第3回例会（第203回例会）結果

と き：平成25年9月7日(土)

ところ：ジャパンエースゴルフ倶楽部

参加者：14名（内、シニア5名）

優 勝 山岡祥二氏（㈱山岡製作所）

準優勝 藤田正樹氏（大阪ガス(株)）

3 位 中嶋忠男氏（社会保険労務士法人中嶋事務所）

B G 賞 武村辰憲氏（双和電機(株)）



＜お知らせ＞

京都工業会館のエレベーターが
新しくなりました。



このたび工業会館のエレベーターのリニューアルを行いました。安全面・信頼性・快適性をご満足いただき、より安心してご利用いただけるようになりました。これを機に京都工業会館の一層のご利用をいただきますようお願いいたします。

新入会員ご紹介

正副会長を中心に「会員拡大特別推進本部」を設置し、役員各位の協力のもと推進中の会員拡大運動により多くのご入会をいただきました。同運動は今後共進めていきますので、会員各位のご協力をよろしくお願いします。

〈正会員〉

(9月20日、第292回理事会で承認されました。)

会 社 名	代 表 者 名	所 在 地 (TEL・FAX・取扱品目)
(株) 旭 技 研	社 長 松 山 晋 也	〒601-8394 京都市南区吉祥院中河原里北町17 TEL.075-313-5525 FAX.075-313-8810 精密機械部品製造、組立、及びアルゴン溶接
生 田 産 機 工 業 (株)	社 長 生 田 泰 宏	〒612-8241 京都市伏見区横大路下三栖辻堂町6 TEL.075-611-4347 FAX.075-622-4391 非鉄金属加工機械製造 (伸銅機械)
(株) 泉 産 業	社 長 中 森 信 輔	〒601-8306 京都市南区吉祥院宮ノ西町10 TEL.075-312-6551 FAX.075-313-4490 高圧ガス製造販売
(株) 牛 田 製 作 所	社 長 牛 田 幸 一	〒604-8862 京都市中京区壬生森町39 TEL.075-841-8943 FAX.075-841-9011 試験機器装置製造
応 用 電 機 (株)	社 長 茶 屋 誠 一	〒610-0101 城陽市平川中道表63-1 TEL.0774-56-0133 FAX.0774-52-5211 電子・光学を応用した測定・計測機器、メカトロ機器、 医用機器の開発、設計、製造
(株) 京 芝 製 作 所	社 長 小 山 雅 史	〒601-8307 京都市南区吉祥院向田西町12 TEL.075-313-9009 FAX.075-313-4528 金属加工業 (電気部品、照明器具等)
(株) ク ロ ス エ フ ェ ク ト	社 長 竹 田 正 俊	〒612-8443 京都市伏見区竹田藁屋町43 TEL.075-622-2600 FAX.075-622-4700 開発試作品製作及び臓器シミュレーター開発
サンコーエンジニアリング プラスチック(株)	社 長 山 本 次 男	〒601-8203 京都市南区久世築山町377-8 TEL.075-922-6900 FAX.075-922-6898 プラスチック加工、材料販売
菅 原 精 機 (株)	社 長 菅 原 一 博	〒607-8164 京都市山科区榊辻西漬町14 TEL.075-581-7121 FAX.075-581-2667 粉末成形用精密金型・粉末成形用ロータリープレス機 製作
(株) タ ン ゴ 技 研	社 長 永 砂 達 郎	〒627-0041 京丹後市峰山町菅123-1 TEL.0772-62-0318 FAX.0772-62-5787 輸送用機械器具製造業
(株) 高 尾 製 作 所	社 長 藤 原 裕 康	〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町62 TEL.075-761-1121 FAX.075-761-1125 理化学機器、産業用セラミックス、製造、卸、販売

会 社 名	代 表 者 名	所 在 地 (TEL・FAX・取扱品目)
高 村 工 材 (株)	社 長 河 野 晴 美	〒607-8184 京都市山科区大宅甲ノ辻町114-7 TEL.075-502-2005 FAX.075-502-2006 プラスチック切削加工、発泡断熱材、繊維質断熱材、パッキン、 ガスケット
東 邦 電 気 産 業 (株)	社 長 佐 伯 希 彦	〒604-8872 京都市中京区壬生御所ノ内町32 TEL.075-811-7131 FAX.075-811-3645 電気工事業、管工事業
友 金 電 機 (株)	社 長 友 金 宏 之	〒615-0046 京都市右京区西院西溝崎町19-1 TEL.075-311-0191 FAX.075-311-0193 電気機械器具製造
(株) ナ イ キ シ ス テ ム	社 長 内 貴 元	〒613-0023 京都府久世郡久御山町野村村東102-1 TEL.075-633-6688 FAX.075-633-6699 各種工作機械製造、販売
(株) 日 新 シ ス テ ム ズ	社 長 竹 内 嘉 一	〒600-8482 京都市下京区堀川通綾小路下ル綾堀川町293-1 堀川通四条ビル TEL.075-344-7880 FAX.075-344-7901 システムのアプリケーションソフトウェア 組込み機器の基本 ソフトウェア及びアプリケーションソフトウェアの設計・開発
(株) 日 豊 製 作 所	社 長 白 石 正 実	〒612-8496 京都市伏見区久我西出町3-10 TEL.075-933-6565 FAX.075-934-6671 製缶加工・精密板金加工
日本アイ・ティ・エフ(株)	社 長 芝 原 和 人	〒601-8205 京都市南区久世殿城町575 TEL.075-931-6040 FAX.075-931-6166 セラミックコーティング受託加工及び成膜装置販売
(株) 藤 岡 製 作 所	社 長 五 百 井 寿 昭	〒607-8326 京都市山科区川田御出町50-18 TEL.075-591-4638 FAX.075-581-4869 精密機器の金属部品加工
(株) 平 安 製 作 所	社 長 高 橋 鉄 次	〒520-1823 滋賀県高島市マキノ町中庄464 TEL.0740-27-1271 FAX.0740-27-1272 輸送用機械器具製造業 自動車トランスミッション部品、エンジン部品、車体部品、 産業機械部品
マ イ ク ロ ニ ク ス (株)	社 長 八 木 良 樹	〒613-0036 京都府久世郡久御山町田井新荒見24-1 TEL.0774-46-8303 FAX.0774-41-2771 自動機製造、販売
(株) M I R A I	社 長 森 本 健 一	〒612-8388 京都市伏見区北寝小屋町47 TEL.075-604-0617 FAX.075-604-0618 液晶・半導体、各種精密機械製造・販売
(株) 村 上 製 作 所	社 長 村 上 敏 幸	〒601-8122 京都市南区上鳥羽北塔ノ本町15 TEL.075-672-4355 FAX.075-672-1689 分析計測機器・医療機器等の精密板金部品製造

〈賛助会員〉

会 社 名	代 表 者 名	所 在 地 (TEL・FAX・取扱品目)
(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ 関西支社京都支店	支店長 北 本 社	〒600-8005 京都市下京区四条通柳馬場 京都フコク生命四条柳馬場ビル4階 TEL.075-241-9310 FAX.075-241-7321 携帯電話事業
ケ イ ・ マ ッ ク (株)	会長兼社長 中 島 寛 明	〒532-0027 大阪市淀川区田川2-6-8 TEL.06-6300-1047 FAX.06-6300-1015 冷間圧造製品、アルミ加工品、樹脂化成品、自動車産業機器 向機能部品、住宅関連部品、商品、太陽光パネル向機能部品
(株) J T B 西 日 本 京都支店	執行役員支店長 杉 本 健 次	〒600-8023 京都市下京区河原町通松原上ル2-338 京都四条河原町ビル7階 TEL.075-365-7721 FAX.075-365-7713 旅行業
日 本 機 材 (株)	社 長 脇 坂 雄 三	〒541-0052 大阪市中央区安土町1-8-15 野村不動産大阪ビル8階 TEL.06-6261-8351 FAX.06-6261-8620 自動制御機器の専門商社
富 士 通 (株) 京都産業営業部	京都産業営業部部長 鷲 尾 昌 彦	〒600-8005 京都市下京区四条通麩屋町西入立売東町1 TEL.075-252-9720 FAX.075-252-9705 通信システム、情報処理システムおよび電子デバイスの製造・ 販売ならびにこれらに関するサービスの提供

平成25年度 生産革新工場見学会 ご案内

～現場の底力を支える生産革新活動～ 渾身の力を込めたモノづくり企業の生産現場に学ぶ

“生産革新”への多くの課題を大胆に、そして革新的な活動で克服したトップ企業の実践事例と、生産革新に取り組む現場に学ぶべく、平成25年度『生産革新工場見学会』を開催いたします。

記

期 間 平成25年11月～平成26年3月 計4回

対 象 工場長、製造部門長、生産管理・生産技術などの管理者及び同候補者

運 営 近隣地区の各業界のトップ企業を訪ね、明確な方針による生産革新実践事例の紹介やムダ排除に取り組む製造現場に学びます。
※業種的に競合する訪問先がある場合、その部分の参加をご遠慮願う場合がありますので、ご了承願います。

定 員 27名

会 費 1社1名につき、
京都工業会会員企業：30,000円
会 員 外：45,000円 《税込み》

※第4回例会の貸切バス代と昼食代を含みます。

※メンバー登録制とし、各例会には登録者または代理者が出席できます。

申込締切 10月30日(水)

問 合 せ (公社)京都工業会 (TEL) 075-313-0751

《プログラム》

1	『ホシデンエフ・ディ株式会社』 主な生産品目：液晶表示素子・モジュール テーマ：「信頼され愛される製品作りを通じ、 高い品質保証能力を達成」
2	『株式会社リコー 福井事業所』 主な生産品目：乾式トナー、サーマルペーパー、熱転写リボン テーマ：「5S活動と安全衛生活動の取り組み ～全員参加による体質改善活動～」
3	『株式会社椿本チエイン 京田辺工場』 主な生産品目：各種産業用チェーン テーマ：「モノを動かす・運ぶ」、「コントロールする」 最適商品をグローバル生産」
4	『村田機械株式会社 犬山事業所』 主な生産品目：ロジスティクス・FAシステム、 クリーンAMHS、工作機械 テーマ：「一品一様の個別受注生産」 『三菱電機株式会社 稲沢製作所』 主な生産品目：エレベーター、エスカレーター、ビルシステム テーマ：「意識改革を通じて製造業としての 競争力強化を実現」

京都工業会ニュース No.376

■2013年10月18日発行

■発行 ―― 公益社団法人 京都工業会

〒615-0801 京都市右京区西京極豆田町2
TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755
U R L : <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail : info@kyokogyo.or.jp